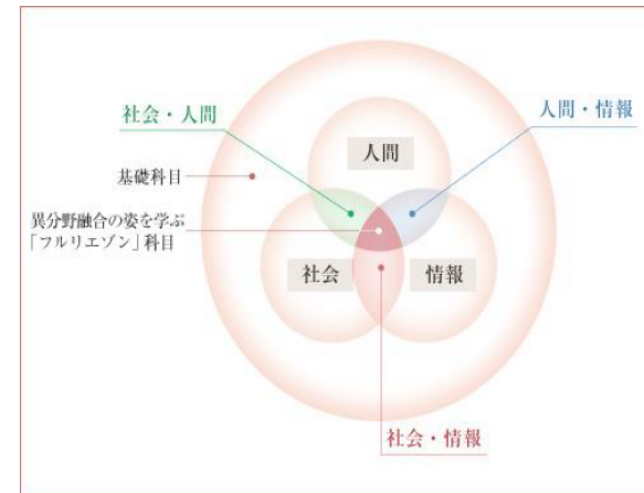




## ISアーキテクトの人材像とその育成

ADPISAプロジェクトリーダー  
青山学院大学社会情報学部教授  
宮川 裕之

1



2



## 情報システム専門家に求められる能力

- 第1期—ハードウェアの性能によって他社との差別化ができたコンピュータの黎明期
  - コンピュータを作る能力(CS)
- 第2期—アプリケーションによって差別化ができた時代
  - 利用者からのデータ処理の要望に応じてコンピュータプログラムを作成する能力(SE)
- 第3期—情報そのものが差別化要因となる時代(IS)
  - 顧客の満足度を高めるための「情報の仕組み」、「人間活動」を構想する能力
  - 情報技術の領域に加え、経営学、社会学、心理学などの幅広い知識が求められる
  - 「開発者と利用者が一緒になって情報システムをデザインする」という姿勢

3



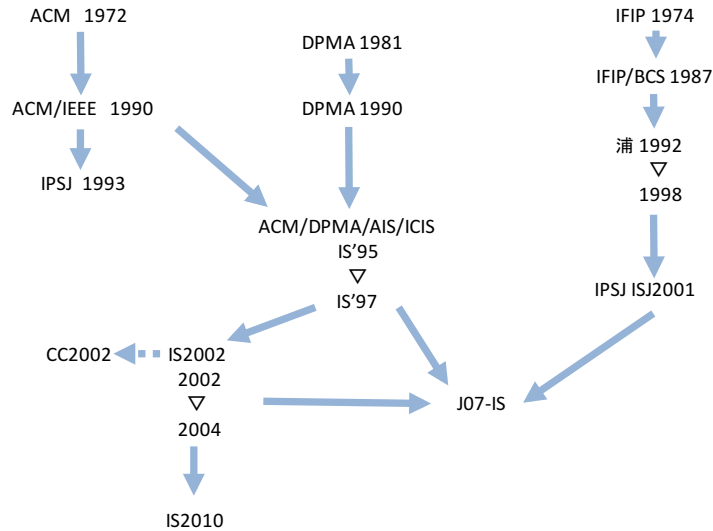
## 5つの情報専門分野と国際的同等性

- CS (Computer Science)
  - 自動化、効率化
- SE (Software Engineering)
  - S/Wの生産性向上、品質向上
- **IS (Information Systems)**
  - 顧客満足度、費用対便益 (投資効果)
- CE (Computer Engineering)
- IT (Information Technology)
- 国際的同等性

4



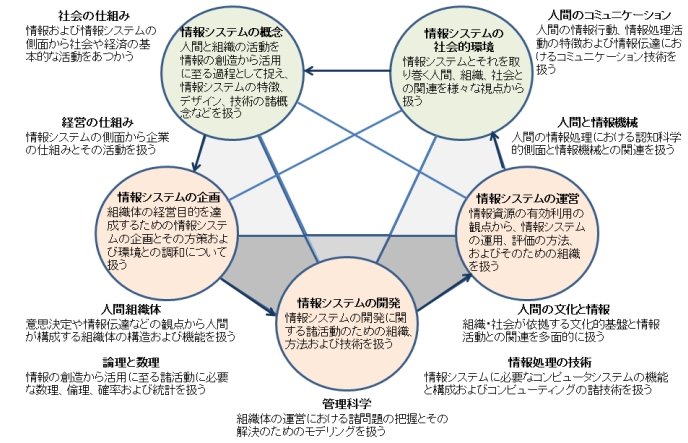
## ISカリキュラムモデルの流れ



5



## 情報システム学の体系



引用：浦昭二、情報システム学へのいざない、培風館、1998

6



## 情報システムアーキテクト育成の参照体系

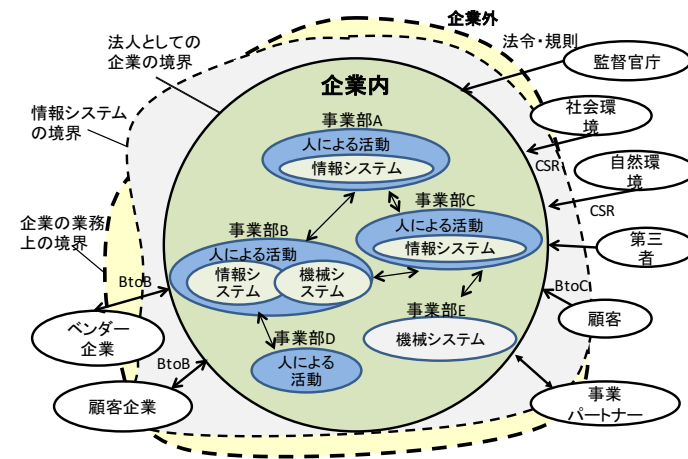
情報システムアーキテクトは、**高度な技術者倫理と専門性**を有し、特に**情報システムの視点**で**企業活動などの人間活動**を捉える能力ならびに**情報システムによる価値創造**を構想し実現することのできる知識、スキル、コンピテンシーを有する人材。

ADPISAにおける情報システムアーキテクト教育の基本的な考え方は、「人間活動と情報技術の調和」、「異なる専門領域の融合：個別専門領域のシステム化」という**ISのマインドセット**をベースに、**情報技術の進化**や**社会状況の変化**に対応すべく、必要な学習項目を再定義した上で情報システムアーキテクトを育成すること。

7



## 情報システムとその環境



8



## 情報システム部門の抱える主要な課題

企業の情報システムは、日本では長年にわたりシステム開発の多重の下請け構造により実現されており、ビジネスのアジリティが要求される現在においては、ステークホルダー間の価値の不一致が構造的な不幸を引き起こしている。

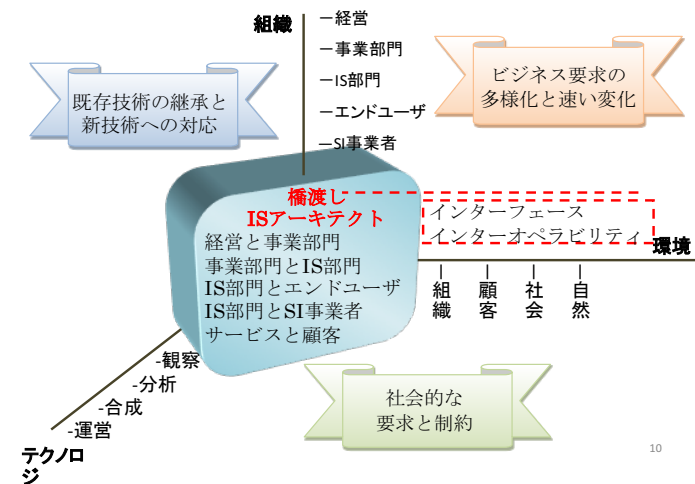
また、情報システムの社会における役割が重要になるに従って社会的責任(CSR)と事業リスクの関連性が高まってきている。

- ◆ 既存技術の継承と新技術への対応
  - ・生産性向上
  - ・品質向上
  - ・イノベーション
- ◆ ビジネス要求の多様化と速い変化
  - ・問題形成と問題解決
  - ・スタートアップのマネジメント
  - ・顧客満足度の向上
- ◆ 社会的な要求と制約
  - ・安心・安全
  - ・ひと・社会・自然に対する優しさ
  - ・持続力・復活力

9



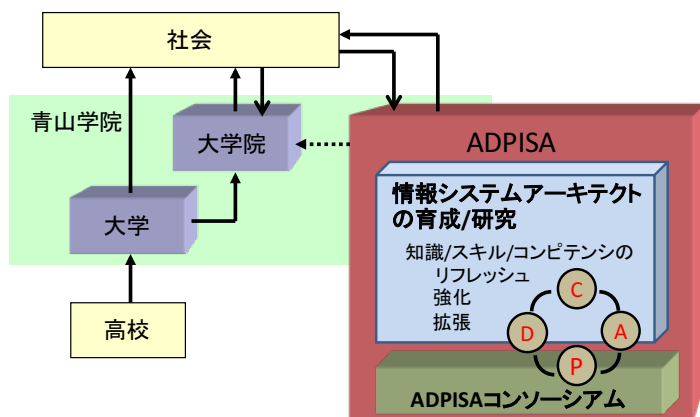
## 情報システム部門を取り巻く環境



10



## 社会情報学部附置リエゾンラボ ADPISA



11



ご清聴ありがとうございました

12